

9月17日(火)、6年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「あなたは作家」です。学習活動の進め方に見通しをもち、主人公の人物像や状況を設定することが目標です。この単元では、一枚の写真(交差点を行き交う人々の様子)の一部から、物語を想起し、自分のペースや方法で人物像や状況の設定を考え、最終的には一つの物語を書き上げます。まさに作家のようです。

初めに、教師がモデル文(風船の写真から想起した、ファンタジーの物語)を紹介しました。そして、モデル文を基に、写真を使った登場人物や状況の設定の仕方を確認しました。



【モデル文を読む様子】

次に、学習の進め方を確認しました。これから考える五つの設定をカードに示しました。①主人公の設定(名前、性格など)、②語り部の設定、③登場人物が会う「困難」と物語の「終わり」の設定、④荒筋の設定、⑤「組み立て」の設定です。考える設定は五つありますが、どの設定から考えてもよいこととし、児童が、自分で選択・決定し、自分のペースで取り組むことができるようにしました。また、考えに行き詰ったら友達と相談してもよいことにしました。

設定を考え始めると、児童はそれぞれに取り組みやすい設定から考えました。最も多かったのは③「困難」と「終わり」の設定でした。①主人公の設定を考えている児童は、案外に考え込んでしまい、鉛筆が進まない様子でした。しばらく経っても、児童は誰一人として友達に相談しようとしませんでした。そこで、教師が、「3分間だけ、自由に動いてよいです」と声を掛けました。すると、多くの児童が動き始め、考えた設定を友達に話したり、グループを作って交流をしたりする姿が見られました。3分が経過し、教師が、「3分経ったけれど、そのまま続けてよいです」と言いましたが、多くの児童は、自分の席に戻り、続きを進めました。



【設定について相談する児童】

最後に、できたところまでで、どのような設定を考えたのかを、数人の児童が発表しました。犬を主人公にしたり、話することができない赤ちゃんを語り部にしたりと、面白い工夫が見られました。授業が終わった後も、友達とカードを見せ、自分が考えた設定を楽しそうに紹介する様子が見られました。



【休み時間に交流する児童】

新しい名古屋市の教育方針である「ナゴヤ学びのコンパス」では、自分のペースや方法で学習内容や進度を自己選択・自己決定すると、児童は自ら学習を進めることができる(自走する)と考えます。また、自分から友達や教師に相談できる環境を整えることで、協働的に学習を進めることができます。教師は、その活動の様子を丁寧に見取り、学習状況を把握したり、個に応じて支援したりします(「伴走する」と言います)。「子どもは有能な学び手である」という子ども観で、今後も学習支援に当たりたいと思います。